

知的障害のある生徒の性に関する指導の工夫

—個別指導用教材の開発と指導実践—

和歌山大学教育学部附属特別支援学校 鶴岡尚子

和歌山大学教育学部 林 修

1. 研究の背景と目的

養護教諭である筆者は、平成 27 年度より知的障害のある本校高等部普通科総合産業コースに在籍する生徒たちが、性に関する課題に対して適切に判断し、行動できる力をつけることを目指した教材冊子「パスポート」を作成し、保健室での個別指導に当たってきた。パスポートは、生徒たちが性的に自立し、「科学的知識と人権にそった性的自己決定ができること (p. 226)」(関口、2017) を目指して作成したもので、内性器の仕組みや性交、妊娠、中絶、避妊、性暴力などの幅広い内容で構成している。そして、個々の実態に応じ、重点的に学ぶ点を変えたり、パスポートの内容自体も改良したりしながら実践を重ねてきた。

こうした取り組みの中で、パスポートによる指導の課題が明らかになってきた。それは一人の指導を終えるまでに長い時間を要することである。具体的には、生徒一人に対して一回 30 分～40 分程度の指導を 5～10 回程度継続するため、長期に亘ってしまうことである。しかもこうした指導を総合産業コース 3 年生 5 人に対して個別に行っているため、高等部の同じ学年の普通科コースに在籍する(内部進学)生徒たちにまで、指導をする時間を十分に確保することができず、全ての生徒の学ぶ機会を保障できてこなかったという反省がある。

こうした問題を解消するためには、指導の効率化を目指す必要がある。そこで今回は、ICT を活用した新たな取り組みを行ったので報告する。

2. 対象と方法

高等部の生徒 4 名で、知的障害の程度が軽度の生徒たちを対象とした。この 4 名に対して、自宅学習するための新たな教材プリントを作成し、試行的に使用することとした。

作成したのは、A4 サイズ、1 枚分のプリントである。

このプリントを用いた取り組みの成果について、これまでも行ってきた事前・事後のアンケートと聞き取りにより把握する。

3. 実践の概要

指導の流れは、表 1 に示すとおりである。

表 1. 今回行った指導の流れ

	生徒の活動	指導内容と目的
1 回目	事前アンケートへ記入し、養護教諭の質問に答える。	事前アンケートへの回答をもとに、養護教諭から質問をし、性に関する興味や知識の程度を把握する。
2 回目	基礎的な内容を学習し、自宅学習に向けての説明を聞く。	自宅学習で視聴する動画やインターネットサイトが理解できるよう、前回把握した実態に応じて、生理学的知識を学ぶ。
3 回目	自宅でタブレットやスマートフォンでインターネットサイトの閲覧、動画の視聴をする。	QR コードを載せたプリントを渡し、自宅で視聴してくるように伝える。
4 回目	補足説明を聞いたり、質問をしたりする。事後アンケートに記入する。	生徒からの質問に答えたり、コンドームに触れてみたりする。最後に事後アンケートに回答し、生徒の考え方の変化や学びになったことを把握する。

1 回目は、生徒が性に関する事前アンケートに答え、その内容について養護教諭が質問をする時間である。例えば、アンケートでは、「私は、自分の体のことをよく分かっている」、「私は、今、性のことで悩みが多い」、「性のことで困った時、だれかに相談すると思いますか?」といった質問それぞれに、「とても思う、まあ思う、あまり思わない、全く思わない」等の 4 つの選択肢から回答させた。その回答について、養護教諭から「なぜそう思うの?」、「例えばどんなこと?」等の質問をすることで、生徒と対話しながら、性に関する関心の程度や知っていることについて把握しようとした。

2 回目は、1 回目に把握した生徒の実態に応じて、内性器や生殖の仕組みについて学ぶ時間である。特に、性交についての知識がなければ自宅学内容を理解できないため、イラストなどを用いて学習するようにする。そして自宅学習用のプリントを渡す。

3 回目は、プリントを用いた自宅学習である。

筆者はこれまでの指導の経験から、生徒がインターネット上で、性に関する正しい情報にたどり着くことは困難であると感じてきた。そこで、今回作成した自宅学習用プリントには、特に読んで欲しい、また視聴してほしいページに繋がる QR コードをいくつか掲載した。これらのリンク先は、既存のホームページや動画であるが、いずれも本校が進めようとしている包括的性教育（セクシュアリティ教育）^注の考えに基づいた内容となっている。すなわち、生徒たちが、アダルトサイトや根拠のない噂などに触れ、間違っただけを信じてしまう前に正しい理解に導いたり、また、触れていたとしても、正しい知識によって間違っただけの思い込みを修正したりできるような内容のサイトを選定した。それらの主な内容項目は、マスターベーションについて、コンドームの意義、妊娠のサイン、間違っただけの情報、性的同意、などである。

また、性についての知識をより多く知りたいと思った時に、自分で調べることができるような「信頼できるサイト例」もいくつか提示した。

4 回目は、自宅で閲覧・視聴した中で印象に残ったことや、分からなかったこと、もっと

知りたいことなどについて対話をする時間である。この時間では、一番身近な避妊具であるコンドームを提示し、実際に触れてみる活動を取り入れた。ただ、この活動は強制ではなく、本人の意向を確認した上で実施している。

最後に、生徒に学習を振り返っての事後アンケートへ記入させ、書かれた内容を事前アンケートと比較し、生徒自身にもどのような変化がみられたのかを自身で振り返らせながら、対話をして終了する。

4. 結果と考察

生徒の知識量によって、自宅学習の前の学習と説明の時間が長くなることもあったが、概ね上記のような4回で学習を終えることができた。

対象とした生徒たちは、アダルトコンテンツに触れている者、そういったものに関心がなく全く触れたことのない者、なんとなく耳にしたことがある者など、性的なものへの興味や接触の度合いは個々に異なっていた。

そのような中、生徒たちの実態として明らかになったのは、異性の体の仕組みについての知識や理解が不十分であったことである。例えば、女子生徒が男性器の名前や勃起という現象について知らなかったり、男子生徒が女子生徒の生理については、「時々血が出る」という程度の知識しかもっていなかったりしたのである。互いの体について正しく理解することが、相手を尊重した人間関係づくりに繋がるため、基本的な生理学的知識は不可欠であると考えられる。そのため、こういった知識不足に対しては、対面で、生徒の受け止め方の反応を見つつ、質問にも答えながら説明をした。ここでは、前年度に報告した制作しながら学ぶ教材（鶴岡・林、2022）や絵本のイラストを用いたことが、生徒たちのスムーズな理解に役立ったと考えられる。

また、自宅で閲覧・視聴した内容について感想を聞いたところ、文章の量や動画の長さは特に負担に感じることはなかったとのことであった。そして全員が1日で学習を終えていた。

さらに、自宅学習で印象に残ったことを尋ねると、「性的同意」に関する動画（NPO 法人ピルコン）をあげることが多かった。それは、性的な行為をするためには、相手の同意を得る必要があることの理解を促すアニメである。それを視聴して、「セックスすることを踏まえて付き合うものだと思っていた」、「本当の気持ちは言ったほうが良いと思った」といった感想が聞かれた。相手の意向を尋ねる必要性は、学校生活上ではごく一般的に指導されていることであり、生徒たちもそのように認識しているであろう。しかし、それが恋愛関係となると、社会の中では「空気を読んだほうが良い」といった通説が流布しており、あえて言葉に出して同意は求めないほうがよいとされる風潮がある。生徒たちも、意図せずこういった価値観を内面化している可能性がある。親密な関係の中ではそういった行動の結果、深く相手を傷つけてしまう危険性がある。そういったことから、これまでの指導経験からも、生徒たちの中にある恋愛における思い込みやジェンダーバイアスの解消が課題であると捉えて

きたため、今回、この動画によって、彼らの考えに変化をもたらすことができたのは成果と捉えられる。

5. まとめ

今回、動画の視聴を含む自宅学習を取り入れたことで、指導回数を大幅に減らすことが出来た。そして生徒たちは、4回の学習であっても、自分の考えと事実との違いに気付くことができ、さらに、「もし将来恋愛をしたら…」という想定で、「自分はこうしたいと思う」という意思表示をすることができた。こうした意思表示は、互いの権利を大切にするという、包括的性教育の考えに根差すものであった。

その一方で、生徒たちがそういった行動を実際にとることができるのかは、長期的に見守っていく必要があり、さらに、これまで行ってきた5回～10回の学習と、内容の定着や理解の程度に差がないのかは検討できていない。今後は、どういった生徒にどのような学習の形態が適しているのかについて継続的に実践しながら検討していきたいと考える。

注) 包括的性教育（セクシュアリティ教育）とは、「科学的に正確であり、実際的で客観的（nonjudgemental）な情報を提供することによって、年齢に応じて、文化に関連させて性や関係性について教えること」（ユネスコ、2017）と定義される。そして自分や他者の価値観について探求し、意思決定し、コミュニケーションをとりながら、リスクを軽減するためのスキルを獲得するための学習機会である。

6. 引用・参考文献

関口久志（2017）[新版]性の“幸せ”ガイドー若者たちのリアルストーリー。株式会社エイデル研究所

鶴岡尚子・林修（2022）知的障害のある生徒の性に関する指導の工夫—個別指導用教材の開発と指導実践—。2021年度和歌山大学教育学部共同研究事業成果報告書。pp180—182。

NPO 法人ピルコン。イエス・ノーどっち？同意とは【性的同意って知ってる？】
<https://www.youtube.com/watch?v=JhI6WZtyJFg>。（最終アクセス 2022. 12. 16）

UNESCO 編、浅井春夫・良香織・田代美江子・渡辺大輔 訳（2017）国際セクシュアリティ教育ガイダンスー教育・福祉・医療・保健現場で活かすために—。p22. 明石書店。